

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員一人ひとりが問題、目標を自由に出し合う中で、理念が問題解決の指針となるよう、さらに共有を深めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	節分、ひな祭り、花見、母の日等、その他にもたくさんの催しがあるが、行事そのものではなく、皆で支えあいながら参加することが大切であることを、折に触れて発信していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	散歩やイベントを通じて徐々に地域に馴染んでいけるように、出過ぎず・出なさ過ぎず、自然な形で取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の地域への貢献・ご利用者様の社会交流という二つの視点から、散歩の傍ら「見守りパトロール」を実施している。また、今年度から認知症サポーター養成講座を実施することで、事業所の力を活かした取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ一人ひとりが自己評価に取り組むことにより気付きが生まれ、課題が明らかになり、目指す方向が確認していく事が出来た。	○	スタッフ全員で評価について話合ったりして改善につなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、グループホームへの理解が深まり、利用者家族、区長、民生委員、行政、地域包括支援センターからも意見が出て、サービスの質の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者様の更新認定に関する打ち合わせや、制度の問題等情報交換を積極的に行いサービスの向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合いながら、2名の方が制度を活用していただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修会には積極的に参加し、虐待は身体的虐待だけでないことを周知し、どういった行為が虐待となるのか、日頃のケアの中にその可能性が潜んでいないかを毎月の勉強会の中で検証している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分な説明を行い理解・納得を図り不安がないようにしている。退去後についても訪問したり、電話連絡を行なうなどし、支援している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で不満や意見があればスタッフが聞き、玄関入り口には意見箱を設置しており、利用法を説明している。運営推進会議にも参加して頂き、要望や意見を受け止め話し合い、運営の改善に努めている。	○	スタッフは、利用者様が話しやすい環境を作り、意見を聞き反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全体報告としては運営推進会議で生活状況報告をするほか、ホーム便りを毎月発行し、日常の様子や近況を伝えている。個別での報告は家族面会時や電話などで、その都度近況報告等行なっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載しており、公的窓口を紹介している。ホーム内では、管理者やユニットリーダーが窓口となつて対応させていただいている。また、家族からの意見や不満・苦情等は出来ることは直ちに反映させている。	○	ご家族が意見や不満等を伝えやすい環境作りをしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会において運営に関する職員の意見や提案を聞き、業務に反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各催しの際にはなるべく職員が全員参加できるよう調整したり、利用者様の状況の変化等に応じて、柔軟な対応ができるよう話し合いながら、勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にしたいので出来る限り、異動や離職を抑える努力は行っている。	○	努力はしているが、入社する職員よりも退職していく職員のペースの方が早いのが、現在は職員が定着しつつある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望を聞き、また本人の資質や能力に応じて資格関係や研修を受講してもらっている。、研修費用等は事業所が全面的に支援している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に入会しており、また地域ごとに研修会を年5～6回程度行い、情報交換をしながら、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。また、施設見学にこられ、意見交換をしながら同業者との交流に取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的にスタッフとの会話の中で、話しを聞いたり、時には食事に行ったりと職場以外でのコミュニケーションもとれるように配慮している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会等には積極的に参加し、知識、技術の向上を図るように努め、職員の資格取得に関しても積極的に支援している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員によって対応は異なるが、困っている事、不安な事、求めている事等を聴き出したり読み取ったりする努力は行っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の段階で、利用者様とご家族に、不安なことや何を求めているか十分に話を聴き、サービスが利用者様やご家族にとって適切なのか、一緒に考えるように努めている。また、些細なことでも電話連絡で報告・相談を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族が不安なことや必要だと感じていること、利用者様の性格や生活歴を参考にして支援の見極めを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合には、ご本人にとって馴染める環境であるかを見極めるためにも、来所していただき、お茶を飲んだりして雰囲気に馴染めていただき、安心して過せる環境作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩として経験豊富な入居者様達から教えられることは多い。家事等のかかわりの中では、スタッフが意識的に教えていただけるような場面作りをしたり、役割を持っていただけるように働きかけている。	○	スタッフは関わり次第では、介護する側・される側を作り出してしまいます。入居者様の能力を最大限引き出せるような環境を作れるように配慮していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の力が必要な場合には協力していただき、散歩に行ったり外出したり、各催しにおいては、ご家族に積極的に参加していただき楽しまれている。また、一緒に食事をしたりなどの機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族またはご本人の話から、家族関係は把握するようにし、ご家族の事情やご本人の意向も含めて対応するようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部との面会時間や外出、外泊にも制限を設けず、ご本人の大切な関係を継続できるよう配慮、支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良しグループを大切に環境作りをし、日々の生活が穏やかに出来るように支援している。混乱を引き起こして雰囲気が悪くなってしまうこともあるが、スタッフが何気なく間に入り支え合えるように行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が修了する時は、入院、という状況が施設の性質上多いため、利用が終了しても、ご家族の相談に応じ、訪問したり、電話連絡を行なうなどの支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いを大切にし、今、何を不安に感じているかなど自分自身に置き換えて接するように努め、ご本人のペースで安心した生活が送れるよう努めている。	○	今後も、入居者様の立場に立って、どんな生活を望んでいるのかを検討して、ご本人が安心した生活が送れるように、一人ひとりの希望や意向を反映しながら支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の訴えや様子からどのように暮らして来たのか、どのようなことが好き・嫌いなのかを情報収集し、把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や健康状態等を把握し、介護記録・業務日誌など使い分けてスタッフが入居者様の現状把握をしやすいようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入居者様の状況やご家族の意見・要望、アセスメントの内容を勘案のうえ、毎月のカンファレンスで職員の気づきや意見を反映しながら計画書を作成している。	○	今後もご本人、ご家族と密に話し合いながら、充実した介護計画が作成できるよう努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは基本的には6ヶ月ごとに行っている。利用者様の体調の変化やご家族の要望、医師の意見などがあった時は随時、見直している。緊急を要する場合は、事後の報告になることがある。	○	介護計画の変更は、必要性に応じ柔軟に行い、現状に即した介護計画のもとでケアできるようしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者様の言動や気づき等を詳細に記録し、情報を共有してケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニット及びデイサービスとの独自性を活かし、利用者様の生活がより豊かになるよう、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	見守りパトロールの実施や防火訓練、近隣の小学校やボランティアの方を招いたりと交流などをさせていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のサービス事業者との連携を図りながら支援しているが、現在のところ他の介護保険サービスの利用は今までない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターと協働して、ケアマネジメントにはあっていない。地域包括支援センターには運営推進会議において協力してもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重してかかりつけ医を大切にしており、受診の支援も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が認知症の専門医(精神科)であり、随時相談したりしながら、助言などをいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、毎日のバイタル測定と、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療が必要になった場合は、お見舞いに行ったり、電話連絡で、病院関係者との情報交換を行いながら、利用者様が安心して早期に退院してもらえるよう連携を蜜にしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期生活支援に関する覚書を説明し、ご本人の意向、ご家族の希望等を聴きサインをいただくようにしている。変化が生じた時には、主治医からの説明と共に、グループホームの方針や起こりうるリスクなども家族に説明して、今後の支援の仕方を検討するようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師の説明とともに、ホームでの「できること・できないこと」の見極めをし、家族に説明・同意をいただいたうえで支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は、ご本人やご家族から情報を聴き不安なく安心して生活が送れるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理は充分に行っている。お一人おひとりを大切にし、人生の大先輩であるということを認識して、尊敬した言葉かけをしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションをこまめにとり、ご本人の意向を尊重するように働きかけたり、自己決定してもらいやすいように場面作りをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務が優先されることがないように、職員間で意識をしながらケアにあたっている。	○ 常に自分たちのケアを振り返るようにケア会議等で心掛けていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は施設にくる専門のお店に依頼したり、ご本人の希望に応じて、美容院への送迎を行なっている。身だしなみはご本人にわからないように洋服を取り替えたり必要に応じてさりげなく支援するようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が食事を一緒に作り、食事をし、後片付けも行うようにしているが、利用者様も重度化してきており、立位保持等が困難を要してきている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好や体調に配慮しながら、おやつや飲み物等は用意している。お酒やタバコは要望がないので行っていない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表などの活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、介助が必要な人には羞恥心に配慮しながら必要な部分だけ介助させてもらうようにしている。出来る限りオムツや失敗がなくなるよう、昼夜声かけ、誘導を行なっている。	○	トイレのサインや排泄パターンを観察し、トイレで排泄できるようにして不快感の軽減を目指していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方から夜間帯の入浴にしたいが、病院受診の付き添い等で、なかなか出来ないのが現状である。時間にとらわれず、ゆっくり入ることが出来るよう支援しているが、入浴を拒む方にもタイミングを見計らい楽しい入浴となるように支援している。	○	日中だけでなく、夕方から夜間の入浴の検討。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方が夜間影響していることもあるので、適度に活動し夜間ゆっくり休んでもらいやすいようにする。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等から一人ひとりのしたい事や楽しみごとを見出し、調理や園芸など自分の仕事や役割をもって生活できるよう支援している。	○	その方の活動が特別なものでなく、日常的な役割のひとつとなるまで継続して支援を重ねていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様やご家族の希望に応じて、金銭管理の出来る方にはお金を所持し買い物等で使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的にまた希望に応じて、ホーム周辺の散歩や、見守りパトロールにスタッフ付き添いにて出かけたり、また近くのスーパーにて買い物にも出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて、花見に出かけたりや、病院受診の際などにそのまま近くをドライブしたりなど、外出し気分転換できる機会をつくっている。	○	ご本人やご家族と相談しながら、外出する機会を多くもてるよう計画していきたい。また外出行事の際のご家族の積極的な参加も促進していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があるときには、手紙や電話をできるようにしている。また定期的に「なごみ便り」を発行している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人など、馴染みの方が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。時間制限もなく、都合の良い時間にいつでも来ていただけるような配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが、拘束禁止を周知徹底しており、行動を制限したりしないよう、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なるべく施錠しなくていいよう取り組んではいるが、帰宅欲求や不穏等、また徘徊される方もいるため、安全面を考慮し施錠することがある。	○	スタッフ全員で話し合い、安全面での配慮を十分したうえで、完全開放へと向けて取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人様のプライバシーに配慮しながら、歩行が不安定な方は、転倒等がないようさりげなく近くで見守ったり、さりげなく全員の所在や様子を把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて、制限することのないように、物品の管理及び危険を防ぐ取り組みを行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書及びヒヤリ・ハットを作成し、何故おこったのか等を皆で話し合い取り組み、また毎月の勉強会などで事故防止の研修などに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月の勉強会などで看護師が中心となり、応急手当や初期対応の研修や訓練を繰り返し行なっている。	○	全ての職員が、臨機応変な判断も含めて、対応していけるよう取り組みを強化していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、通報訓練等、昼夜を想定して実施している。また地域の消防団の協力も得ている。	○	地域の人々や近隣住民の協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	その都度、起こり得るリスクについて、ご家族等に説明・話し合いを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異常が認められた場合には速やかに看護師が主治医及び医療機関に報告し、指示をいただき対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬剤情報を確認し、医師の指示通りに内服できるよう努めている。	○	職員全員が、薬剤情報について、把握、理解できるよう努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を毎日確認しており、水分補給や運動、食事の工夫など行なっている。また、必要に応じて緩下剤の調節を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケアを行なっている。毎夕食後には義歯洗浄を行なっている。	○	将来的には利用者様自らが毎食後に洗面所に立ち寄ることが習慣となるよう意識付けを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作っており、毎食時、水分・食事量の摂取状況を確認している。また、毎月2回体重測定を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手指の消毒、嗽の徹底、毎日ホール手すり等の消毒を行なっている。利用者様・スタッフはほぼ全員インフルエンザ予防接種を受けている。	○	勉強会等にて取り組みながら、感染予防を徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・器具類など毎日消毒している。食材は業者が新鮮なものを搬入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花などを玄関周りや建物周辺に植えており、安心して出入りできるよう、家庭的で親しみやすい環境作りを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心がけており、季節の草花を生けたりしながら、心地よくゆったり過せるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーだけでなく和室や居室を活用しながら、一人ひとりが思い思いに過せるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのものを自由に持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温調整は適宜行い、居心地のよい環境提供に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全室バリアフリーになっている。また一人ひとりの身体機能を活かせるように、手すりの設置など工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室の場所を文字や写真などを使い分かりやすくしたりと工夫している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期には、毎日のようにホーム周辺にて散歩や見守りパトロールに出かけたり、また椅子やテーブルなどを設置し、庭で食事やおやつを食べたりと、楽しんで活動できるよう活かしている。	○	中庭の活用を検討していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちの施設の理念は「その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置き換えるケアを推進し、その人の『笑顔』がみたい」です。この理念が達成できるよう、日頃のケアでは「待つ」ことを大事にしています。できるまで、してみたいと思うまで、寄り添い、会話をしながらその人の思いを大切にする事で、その人らしい暮らしが出来るよう支援しています。また、入居されたことで家族や地域との関係が絶たれてしまわぬよう、四季折々の行事の開催や面会にこられた際の近況報告、機関紙「なごみ便り」の発行を定期的に行っているほか、社会参加の一環として下校児童の見守り運動（見守りパトロール）を実施しています。こういった活動により認知症高齢者の「何か人の役にたつことがしたい、自分にもできる仕事があるはずだ」という気持ちを満たし、社会参加の意欲を維持していきたいと考えています。門川町社会福祉協議会と共同での認知症サポーター講座も2年目に入り、今後も高齢者が住みなれた町でいつまでも暮らしていけるように、また、受け入れる側、受け入れられる側双方が正しく理解しあえるような活動を行うことで地域密着型施設としての役割を果たしていきたいと考えています。